

令和 6 年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立南小学校	校長	岡田 恵子	生徒指導主事	山口 裕子
取組事例名	『ニコニコふわふわ言葉大作戦～温かい学校・温かい学年・学級を～』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
学校内・学級内の「あったか言葉」を全校で集める活動を通して、児童どうしのつながりを深め、相手を思いやる心や感謝する心を育てる。	南小学校の一員として、よりよい学級・学年・学校をつくっていくために自分には何ができるのかを考え行動したり、課題を見出し他者との関わりの中で解決したりする。相手を思う心を持つとともに自分を好きになり大切にする。



2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
(1) 学校全体を振り返り、課題を明確にする。 ○全校児童を対象に、今の自分たちを振り返るアンケートを実施する。 ○生徒指導主事が児童会と連携を図り、学校全体の課題を明確にする。 ⇒「一部の友達にしか関わっていない」 「言葉によるトラブルが多い」 (2) 児童会が、学校の課題を基にどのような取組ができるかを話し合い、企画、立案する。 (3) 児童会が取組内容を全校に発信し、全校で実施する。 取組内容 「ニコニコふわふわ言葉ビンゴ」 ①児童会が、4×4のマスのマスに言われてうれしい「あったか言葉」を書いたビンゴカードを各学級に配り掲示する。 ②各学級で毎日帰りの会、マス目にある「あったか言葉」をクラスの全員が使った数を数え、達成したマスに○をつける。 ③児童会役員が、書かれた内容をチェックして、給食時間に放送で全校に紹介する。 ④児童会が目標を設定して達成をめざす。	児童にめあてをもたせるために ・児童会だけが、学校の月間生活目標を考え全校に発信するのではなく、全校の児童の意見を活かし、それを全校の目標とする。 ・全校児童が振り返りをして、児童会を中心に企画、立案することで、より主体的に、自分たちの問題として考えさせる。 児童の意欲を高めるために ・ビンゴで使った言葉は聞いた児童だけではなく、それを言った児童のよさも認め、互いに気持ちが温くなることを味わわせる。 ・目標を達成できたら、縦割りイベントやクイズ大会等、児童の達成感につながる活動を企画していく。 児童の頑張りを認め、価値付けるために ・児童の意見から委員会につなげると良いものはつなげ、関わる児童の輪を広げていく。(例 靴揃え⇒環境美化委員会へ) 【委員会作成例】 発表音楽会の様子紹介 環境整備カード



3 成果と課題

○ニコニコふわふわ言葉ビンゴでは、自分の学級内だけでなく、異学年や教職員に向けて言った言葉も数えている。それらを言い合うことで、嬉しそうな表情を浮かべる児童や「ありがとう。」と更にあつたか言葉を互いに伝え合う姿が多く見られた。児童どうしのつながりを深めることができたとともに、どのような声かけや行為が相手を温かい気持ちにさせるのかが分かり、その輪が広がった。相手を思うことで自分も嬉しく温かい気持ちになることを味わい、年間を通して全校児童に伝えている「相手を大切にすることは自分を大切にすること」への意識が高まった。 ●Hyper-QU の結果において、学級満足群の割合が全国平均以上だった学級は、前回より 13 ポイント上がって 94%であった。また、学級不満足群の中の要支援群に位置する児童もいるため、引き続きつながりを大切にした取組や丁寧なアセスメントを継続して行い、温かい学校・温かい学年・学級集団に高めていく。
--